

令和４年度第１回立川市第３次観光振興計画協議会 要旨

会議名称	立川市第３次観光振興計画協議会
開催日時	令和４年７月２６日（火曜日） 午後７時００分～午後９時１５分
開催場所	立川市役所３０２会議室
次第	- 開会 - 総合政策部長挨拶 - 委嘱状伝達 - 自己紹介 - 議題 - 立川市第３次観光振興計画の進捗状況について（報告） - シェアサイクル事業について 「立川市魅力発信拠点施設コトリンク」について - フィルムコミッションについて - 観光データ分析について - 観光データ分析について（情報提供） - 観光予報プラットフォーム - 事例紹介・最新動向について - ビックデータ活用による来訪者数の把握について（事務局） - その他
配布資料	- 立川市第３次観光振興計画の戦略と施策マネジメントシート - 立川市内におけるフィルムコミッション・ロケーションサービスの状況・実績 - ビックデータ活用による来訪者数の把握について - 立川市観光動態分析イメージ（当日配布。協議会終了後回収します）
出席者	[構成員] 会長 岩崎太郎、副会長 岩下光明、田中光徳、清水哲夫、青木祥民、木嶋雅史、千葉雄太、相原俊則、大塚正也 [オブザーバー] 田島俊哉 [事務局] 太田勇（シティプロモーション推進担当課長）、津崎政人（観光振興係長）、菅野賀陽（観光振興係）、藤戸茉理亜（観光振興係）
欠席者	片桐庸行、戸島慶太、穂積計人
話題提供者	なし
公開及び非公開	公開
傍聴者数	０人
会議結果及び要旨	- ビックデータの活用について意見交換を行った。 - 次回日程は令和５年２月に開催予定とする。
担当	総合政策部広報課観光振興係 電話 042-529-8562

1. 開会

2. 総合政策部長挨拶

3. 委嘱状伝達

4. 自己紹介

5. 議題

(1) 立川市第3次観光振興計画の進捗状況について（報告）

（会長）

皆様だいぶ間が空きましたので、復習を兼ねていただければと思います。資料の確認を兼ねまして、振興計画の進捗状況につきまして、事務局からご説明と資料の解説もいただきたいと思います。

（事務局）

まず、次第が1枚ございます。リモートの方は大変恐縮ですが、この協議会委員の名簿は後ほどまたリモートの方に送らせていただきます。資料1として「第3次観光振興計画の戦略と政策マネジメントシート」です。資料2として「立川市内におけるフィルムコミッション・ロケーションサービスの状況・実績」でございます。資料3としまして「ビックデータ活用による来訪者数等の把握について」、それとあと要旨と、あと資料4は後ほど配布します。まず、この資料1を用いて説明をさせていただきます。

資料1の1ページ目「1・2、特産品などを開発・普及する」という点で、立川観光コンベンション協会推奨認定品、立川観光コンベンション協会が立ち上がりましたので、推奨認定品コーナーの強化ということで、この6月にオープンしましたコトリンク1階の特産品販売&カフェにおいて、専用コーナーを設けて事業者説明会なども実施し、今、商品数が増えているところです。

その下の「くるりんラベルシリーズの普及・開発」ということで、実は今年、くるりん誕生10周年ということで、立川観光コンベンション協会推奨認定品事業者とも連携をし、10周年記念のデザインを活用した商品開発なども今、進めています。秋にはイベントも考えておりますので、注目していただければと思います。

次は5ページになります。「立川市魅力発信拠点施設コトリンクの整備」というところで、改めて令和4年度の記載はありませんが、6月1日にグランドオープンということで、1階が特産品販売&カフェ、こちらは副会長が経営されるまちづくり立川さんに運営をお願いしています。そちらでは、立川市産を中心に、農産品や特産品などの販売、そしてそれをいただけるカフェが併設されています。6月1日から1ヶ月で概ねレジを通った方の数が12,000人程で、かなりお越しいただいたという印象です。

また、3階にはコトリンク情報発信センター、株式会社けやき出版さんが運営する情報発信センターがあります。こちら6月17日からオープンですので、情報発信についてやりたい方はぜひこちらでもご利用いただければと思います。副会長、何か補足がございましたら、よろしいですか。

（副会長）

具体的には地域の情報を触って食べて感じられる様な、リアルに発信する場所であること、もう1つは、地域の皆さんが集って何かが生まれるようなハブになること、この2つをテーマとして取り組んでおります。観光協会の推奨品も増えましたし、これまではパイはお土産品として持って帰ることができなかったですが、カフェのコーナーで販売させていただいたりして、非常に具体的なデータとしても、推奨品の売り上げが伸びているというものをお出しできていると思っています。

（事務局）

以上、コトリンクの説明です。続きまして、6ページ「4・2、知名度の向上やイメージアップの機会を生かす」ということで、立川ロケーションサービスにおける情報発信、資料2「立川市におけるフィルムコミッション・ロケーションサービスの状況・実績」の方もご覧いただければと思います。

まず、令和4年度における取り組みとしては、香取慎吾さん、岸井ゆきのさんの主演映画『犬も食

わねどチャーリーは笑う』という映画が今度9月にロードショーとなります。これは令和3年度において、立川をメインロケ地にということで撮影が行われたもので、今後、配給会社と連携してプロモーション等を行う予定です。資料2の方をご覧くださいますと、特に令和2年度と令和3年度の問い合わせ件数と実施件数を比較しますとほぼ倍になっており、大変効果が上がっている様な数字になっています。

また、令和3年度は行政財産使用料や民間の施設の使用料、それから道路使用料、ロケ弁等も合わせましてかなり市内への経済波及効果は出たのではないかと考えています。大変上手くいっている事業かなと考えています。続きまして、8ページをご覧ください。

8ページは、後半、議題(2)のところでやりますが、観光データ分析ツールの導入ということで、現在研究を行っているところで、また後半でよろしく願いいたします。ここでは割愛をさせていただきます。9ページに進みまして、シェアサイクルの導入ということで、令和4年4月からシェアサイクルの実証実験を始めております。7月25日時点で32ステーション設置されております。電動キックボードと比べて寂しい数字ではありますが、事業者さんも一生懸命、順次拡大していくということで努めているところです。

その下、青梅線エリア女子旅推進事業は、広域的な観光プログラムを開発するというのですが、今年で5年目、最終年です。過去、コロナで事業が止まっていたのを今年一気に挽回するというので、ほぼ3年分の事業を進めています。4月16日から6月19日までフォトコンテスト、7月23日から9月25日までリアル謎解きゲーム、これは立川、昭島、羽村、福生、青梅をそれぞれつないで、それぞれの駅でリアル謎解きゲームをしました。

さらに、11月には発酵ツーリズムを実施します。フォトコンテスト、リアル謎解きゲームですと、どうしても打上花火的な位置付けなのですが、この発酵ツーリズムにつきまして打上花火というよりは、民間が自走できて継続できる様な建付けを目指しており、残っていければと考えているところです。振興計画につきましては、以上で説明とさせていただきます。

(会長)

ありがとうございます。何かフィルムコミッションについて補足ございますか。

(オブザーバー)

フィルムコミッション、ロケーションサービスですが、今年の4月から6月の数値も手元にありますが、問い合わせ件数・実績を令和3年度を上回るペースで来ております。経済波及効果というところも今年度も、引き続き見込めるのかなということと、先ほどもありました香取慎吾の映画のプロモーションですが、具体的には実際にロケを使った場所のロケ地マップみたいなものを作成してファンの方に手に取っていただいて、街を回遊してもらう。そういう狙いもあるので、測定が難しいですが、そういったところも期待できると考えています。

(会長)

ありがとうございます。それでは委員の皆様からのご質問とかご意見をいただきたいと思います。まずは発表いただきましたシェアサイクル、コトリンク、そしてフィルムコミッションに関連する項目でいただければと思います。

D委員、口火を切っていただいて。あまりシェアサイクルが無かったのでは何か言いたいことがあれば。利用しましたか。シェアサイクル。

(D委員)

していません。自分の自転車に。

(C委員)

利用しました。

(会長)

利用されましたか。C委員、ぜひご感想も含めて。

(C委員)

2回ほど利用させていただきまして、利用者としては、簡単に携帯から自転車の予約ができますし、支払いも自動決済があって使い易いです。多摩川の桜の時期にりましたが、多摩川でシェアサイクルに乗っている方が居て、隣接エリアも同じですね、ハローサイクルですね。

(会長)

国立の方が結構あるので、そこから来ているのかも。

(C 委員)

花の時期は結構、回遊されているという印象を持ちました。近隣のエリアから来ているのかなという感想で、ぜひサイクルポートを一番町の方に増やしていただきたいという利用者目線の意見でした。

(会長)

E 委員はいかがですか。

(会長)

一番、自転車を利用しそうですが。

(E 委員)

自転車は自分の自転車をどうしても利用してしまうので、なかなか。ただ武蔵砂川だとか、西武立川にもポートが設置されているのは、拝見しています。徐々に広がっているというのは、実感としてあります。

(会長)

ありがとうございます。岩下副会長はいかがですか。

(副会長)

これを市民の方ってご存知なのかなっていうところで、どんな形の PR をされているのかを聞かせただけると有難い。また、ポートを作る時の最小エリアも、もし分かれば教えていただきたい。

(事務局)

今、展開しているものでは、2 ラック単位のものが一番小さいです。それ以上のところで置けるところを順次民間の施設、公共施設を探しながら埋めていっているという状況。交通対策課で細かいところを把握しているが、我々からあまり言えるところがない。

周知に関してはホームページ、市の Twitter、動画を作りましたので、YouTube でシェアサイクルが始まりましたといったプロモーション動画を発信しています。あとは、イベント等できっかけがある毎にシェアサイクルについてもセットでお伝えするような形で、少しずつ伝える回数を増やしていくことになると思います。

また今、予定しているのは 10 月から福生市と立川市との連携事業で、同じハローサイクリングでお互いを行き来したら、何かもらえますというプロモーションを新たに打つという事業展開もありますので、露出が増えてくると思う。少しずつシェアサイクルを認知していただく機会を作りながら、同時並行でポートを増やしていく、ステーションを増やしていくという作業を今年度は進めていくのかなというところです。

(会長)

ありがとうございます。

(D 委員)

シェアサイクルが始まる前に、立川創造舎の人達で「たちポタ」という自転車のイベントをやっていたと思うのですが、そういうのも一緒にやりましょうという話もあったりするのでしょうか。

(事務局)

ないです。当時の「たちポタ」をやっていた時の自転車チームがなくなってしまったり、その次に引き継がれた自転車の事業者が撤退されたりというところで、自転車事業の取り組みが変わってしまっているのもあり、上手く連携できていないと思っています。何かきっかけがあれば、一緒にできたらなというところではあります。

(会長)

ありがとうございます。電動キックボードは線を引けば良いだけですが、ハローサイクルはポートの設置があるので、ハードルが高くなるっている。また、ドコモのレンタサイクルって真っ赤で凄く目立つが、ハローサイクルは白くて意外と目立たないので、そこがネックかなと思う。事業者さんに言うのは交通対策課かもしれませんが、立川だけ黄色にするとかできないですか。

(事務局)

色味は無理かもしれないです。

(副会長)

映える感じじゃないと。

(会長)

そこが弱いというのはあります。でも、どこでも返せるので、便利は便利です。北口が弱いってところはお伝えしたいと思います。

(副会長)

こういったことに関して、道路行政と連携して例えばサイクルシティ立川っていうイメージは全然ないので、道路にポートを作れる様な規制緩和を生み出すとか、そういうことはできないか。

例えば、南口駅前是非常に広い歩道がある。そういう所になぜ置けないのかとよく感じる。あと、公園でも良いと思うが、せっかく行っているの、行政資産の規制を緩和して使えるような場所をやると、置く場所が増えると思う。

(事務局)

おっしゃる通りです。

(会長)

その点でいくと、北口も地区計画で民地をセットバックしているところがある。民地だけど、セットバックして歩道提供している。ただ、計画で何もそこに置いてはいけないっていう決まりになっているので、区画整理も終わって 20 数年経っているの、見直していただいて、ラック位は置けるとか、電動キックボードの線は引いても良いという規制緩和があれば、道路に置くよりは遥かにハードルは低くなると思います。

(副会長)

市ですか。

(事務局)

市です。

(副会長)

じゃあ、市でね。

(G 委員)

1 つ規制を緩和してしまうと、またそこが崩れていってしまったり、乱れてしまうところもある。当然その所管のところは慎重にならざるを得ないってところがあり、我々としてはポート、ラックを置いていきたいというところもあり、内部でもその辺のせめぎ合いをしている。

ただ、こういった形であれ、まずポートがたくさん設置されていかないと、乗ったは良いけど、行く場所が無いので、どこに行っても置けるような状況がまずないと使っていただけない。ポートの数を増やしていきたいというのが今、内部では共通した考え方でいる。規制緩和というか、色々なところも含めて、今、考えています。よろしくお願いいたします。

(D 委員)

利用者の声みたいなのは、どうやって集めているのでしょうか。

(事務局)

今、ハローサイクルの方で、毎月、資料をまとめていただいています。声は今のところ集める方法、予定はないです。利用状況は、毎月の定例で把握しながら、まだ数が少ないので、もう少しボリュームが出ると傾向がより分かってくるかと思います。次の協議会で少しお出しできればなと思います。

(会長)

どこでどれだけ利用されているかという数値も出るのですね。

(事務局)

出ます。どこのステーションの一番利用が多いのか。あとは、このステーションからこのステーションに利用されているパターンのランキング、利用の平均の走行距離、そういったものは分かっています。少しボリューム出て、次の会議 2 月位になれば、ある程度ラック数も増えて、数値としては手応えあるもののお出しできると思っております。

(D 委員)

そのデータは前回か、前々回か、B 委員がローデータでもらえるか、みたいな話だったと思うが、結局どうなったのか。

(事務局)

交通対策課の調整によると、もらえなくなってしまったと聞いている。個人情報の取り扱いの関係で難しくなった、ルール変更があったと聞いている。詳細は不明ですが、もらえなくなってしまったという事実は、聞いております。

(会長)

よろしいでしょうか。他に何かありますか、コトリンクとか、情報発信スペースとか、いかがでしょうか。

(C 委員)

発酵ツーリズムはどういった事業なのでしょう。

(事務局)

青梅線沿線の青梅までの自治体との連携事業の最終年度で、立川から西側を周遊して、遊びに行くというきっかけ作りのコンテンツとして、西多摩エリアを発酵という切り口で切り取って、ツーリズム化することを考えました。訪れるきっかけを作ることができるのではないかと、それがお酒だったりとか、今増えているクラフトビールだったり、ワイン、味噌、醤油。実は藍染も発酵の力を使うという、青梅には有名な納豆の会社もあります。そういったものをコンテンツ化して、なぜそういう会社ができなのか、そういう文化ができなのかということも含めて、訪れるきっかけを作っていこうという形を取っています。

発酵デパートメントという民間事業者があり、そことタイアップすることによって、その発酵デパートメントさんが地域と連携しながら、市長会の助成金がなくなった後も、自らその事業を西多摩エリアで形を変えて展開していただく様な、今、そういった種まきをしているところです。展覧会はグリーンスプリングスで開催の調整をしており、そこも例年グリーンスプリングスで開催されるようになれば、立川にとっても来街者を促進するきっかけにもなるので、そういう種まきをしているという感じです。以上です。

(C 委員)

楽しみです。あと、シェアサイクルの件ですが、先程お花見の時期に乗っている方が多かったと意見を申し上げましたが、おすすめサイクリングルートみたいなもののマップなのか、分かり易い形であると、今は肌感覚ですが生活利用が多いと思います。ですので、観光利用を上げて、観光でも使えると思います。来た方がどこで返せるのかというのをいちいちアプリで確認するのが面倒なので、返せる場所、ポートの場所と施設のおすすめルートが紙1枚であると、デジタルでも良いのですが、観光でも使えるかなと思いました。

(事務局)

今、どんどん増えていっているの、ポートを入れるとなると、マップを更新していかなければならない。「たちぼた」という商工会議所の事業で、モデルコースを作ってホームページにアップされていると思います。以前にA 委員に聞いた記憶がある。「たちぼた」の情報は今後、更新されていきますか。

(A 委員)

「たちぼた」は過去に行った各コースの掲載をしている状況で、通常、やっていけば情報を書き換えていけるのですが、実行できていないので今は止まっている状況になっています。

(C 委員)

分かりました。

(事務局)

立川市としては作っていないです。

(会長)

スマートフォンでしたらできますが、電動キックボードはスマートフォンを付けるケースがある。ただ、ハローサイクリングは無い。前にカバンを置いたりして、微妙に調整するなど結構大変です。

B 委員、何かこの辺のところで情報をお持ちのところはございますか。

(B 委員)

シェアサイクルは先程、ローデータの入手がやはり難しいという話があったと思うのですが、一定の条件で事業者から集計データをいただく余地はあるのかどうか。

例えば、どちらかというと市民が使うという議論だった気がするが、今までの利用実績として、やはりビジターの使用が多いということになれば、駅を中心とした OD、出発地目的地の組み合わせを意識しないといけない。市民が多いのであれば、人口分布を考えて色々な所に設置をし、利用促進策を入れてレジャー的に使っていただくということが主眼になる。全体的にどちら側なのかが、非常に気になる。それによって、せっかく入れたものをどう使っていくかという方針が全然違ってくるので、早いうちにハローサイクルから情報いただけないかなと思います。そうすれば、もう少し本質的な議論ができるかなと思います。まだ3ヶ月位なので、そこまでデータが揃っていないかもしれないので、次回位に色々な季節の利用実績と、ある程度このシステム自体が市民やビジターの目に触れてくるので、利用のベースが伸びてきた時の状況を見て、観光としてどういう視点があるのかというのは、その時、議論できるかと思っています。

あと、研究室の方で、ある会社の目的地選択の時に自転車を使うケース、どこの施設を、東京都内利用されているのか、検索されているのかということと、サンプル数が多い少ないのですが、実際に自転車が通った経路のデータがあるので、学生に分析してもらっています。

立川のそこだけを集中してやる訳にはいかないのですが、少し情報が分かったら、提供しようとは思っています。

(事務局)

ありがとうございます。

(会長)

ありがとうございます。もともとシェアサイクルは、導入した経緯は観光用という形で導入されたのですよね。

(事務局)

観光目的でもありますが、ビジネス利用もあるのか市民利用もあるのかというのを3年間でデータを見て、どれが一番利用されているのかを一応検証しましょう。ただ、観光が100%ではないっていうところで、今、スタートしています。

データは、今、定型の決まったデータしかもらっていないのですが、ある程度、ポートが増えていったら、例えば、通行量はどこが多いかという様な有料のデータも頼めるという話で進めています。

このデータを取って欲しいとお願いする時に、B 委員にもご相談させていただいて、データを取ればと思っています。

(B 委員)

またそのタイミングで、ぜひお声掛けください。

(事務局)

現状だと、先ほど会長からお話があった通り、国立のポートが多いので、どうしてもそこに偏るようなデータしかない。多分それが平準化した時にどうなるかというのは、まだそこだけで分析がかなり偏ったものになると今、見えています。

(会長)

ありがとうございます。よろしいですか。

(事務局)

一応、立川市の特性として、立川市からアウトしているパターンと、他の地域からインしているパターン、あとは市内だけで使われるパターン、大きく分けた時に、立川市の今の特性、今の状況でも、インをしている、他地域から流入する数が一定数多いというのは、同時に展開している福生市と比べても、そういう傾向はある。そうすると、やはり交流都市としての地域の強みがあるので、他の地域から入ってきているというのは出ています。

ただ、それが市民なのか、ビジターなのかまではデータが取れるかどうか分からないので、そこを含めて今後、研究していけたらと思っております。

（２）観光データ分析について

（会長）

ありがとうございます。では、次の議題に移らせていただきます。それでは、B 委員からいただきたいと思っておりますが、観光予報プラットフォーム、データ分析について、事務局から解説をいただきながら、B 委員からお話をいただきたいと思います。

（事務局）

一旦、ビックデータについて全体的な話をさせていただきます。資料３でございます。この観光協議会の中でも昔から言われていて、また立川市が現在使用している数字の信憑性や、裏付けというのが果たしてどうなのかということはずっと言われています。来年度に向けて、今、私供でも資料１でも話をしました通り、中心市街地の来訪数、これはもう言うまでもなく、JR 立川駅と多摩都市モノレール、その定期外乗車の方、駐車場台数等を元に算定をしていますが、ここに信憑性があるのかどうかという話もあります。

また、立飛駅周辺は商業施設が増えているが、そこの把握ができていない。国営昭和記念公園も、ここは全員が観光かということそんなこともなく、市民利用もある。イベントの来場者数についても、イベントによって帳尻合わせをしているところもあるので、皆さんのご指摘の通り、民間事業者が提供するビックデータを活用し、裏付けのある数字を持って政策を進めていきたいと考えています。

その中で資料３の②として、裏面のヤフーや、KDDI も含め、B 委員からも観光データ分析のための観光予報プラットフォームもありますので、ぜひその辺りをここで情報提供させていただく、また、B 委員からもいただきながら、意見交換を進めていければと考えています。

（会長）

ありがとうございます。様々なデータの取り方がありますけれど、まずは B 委員から観光予報プラットフォームのお話をいただけますでしょうか。

（B 委員）

観光予報プラットフォームの話と、あとプラスアルファで何かお話をすればよいですか。

（会長）

様々な事例とかもいただけると。

（B 委員）

予報プラットフォームの前に、今、この資料３の話がありましたので、私の理解の解説をします。この表の３つのサービスの比較、こちらに書いてある通りですが、基本的に GPS、スマートフォンユーザーの利用許諾が取れている一部の方の詳細な位置をベースに分析をする様なタイプのものと、携帯電話の仕組みで、自動的に端末の位置を定期的に把握しているという趣旨のデータです。

多分、２種類があり、その会社によってこういうのを組み合わせているという感じになっていました。ドコモのモバイル空間統計はもう量の勝負です。とにかく端末数が一番多いので、誰が居るかは分かりませんが、とにかくその周辺に居た人数という意味では、一番信頼できるものになっていますが、彼らも契約情報を持っているので、その端末が誰の契約か、要するに住所、性別、年代と住所までは把握しているので、統計値としてぎりぎりの範囲でその辺の情報を付加して、あるエリアに滞在している人がどこに住んでいる何歳の男女なのか、そういうところまでは一応公開をしている、そういうデータ提供するというサービスです。結局、その捕捉された人がその住所が違うことは分かるのですが、どういう理由でそこに居るのかということまでは追うことはできない。ただその、それが何曜日の何時頃ということであれば、多少推測できるということになります。

それから、集計単位を今、この 500 メートルメッシュに細かくしていくと、一長一短がありまして、500 メートルメッシュに小さくしていくことによって、そこで捕捉される人口、彼ら独特の集計方法がありまして、サンプル数が少ないと除外されます。ですので、設定しているエリアが細くなればなるほど、除外されるデータが多いことになる。立川市にどんな人が来ているというレベルであれば、立川市全体で集計するデータももらった方が良いということです。立川市にはどこの自治体から来ているのかということとは、もう少し感度が高く分かる、その様なものになっています。

それからヤフー、KDDI のロケーションアナライザー、ここにはないですが、ソフトバンク系のア

グループはそういった携帯の端末情報と、それから一部の利用者から取れている GPS データ、これを合わせてできるところでは、かなり細かい分析ができます。人口データとしての統計値は多分 NTTの方が量が多いので信頼性が高いですが、限られた人数ですけれども、誰がどういうエリアに居たのかということについては、かなり細かい GPS ベースのデータができるので、商圈分析みたいなものとか、細かいレベルではそういったデータの方が良いと私は理解をしています。

ヤフーはアプリ情報なので、あまり数を取れていないという意味で言うと、立川市の中心部位であれば多分、どの位の位置に、どの位の人が居てという分析は可能かもしれないけれども、地域のそれ以外のところは厳しいです。いずれにしても、どういう分析を立川市、このグループとしてやるかによって、どのデータを使ったら良いのかが本質的に異なるので、その辺を今後議論、時間は無いかもしれませんが、可能な範囲で私共もアドバイスをしていければと思います。あと、私の方で最近行ったデータの分析といいますか、その事例を画面共有してご紹介します。

(事務局)

立川市でも今、先生のおっしゃった形で、ヤフーと KDDI のシステムを少し試しで使わせていただいています。

(B 委員)

これでいけそうですね。今、見えていますか。

(事務局)

見えています。

(B 委員)

先程、モバイル空間統計で、これは以前にもご紹介したかもしれませんが、今回使っているのが 2020 年のコロナの第一波の時です。最初の緊急事態宣言の時の、人流の分析結果です。

例えば、今使用しているのは、先程話題になった 500 メートルメッシュのものです。500 メートルメッシュで、例えばある期間のデータを持っている時に、この見せ方は 2020 年 1 月 19 日なので、まだコロナの影響がほとんどない時期で、4 月 26 日はもう緊急事態宣言の真っ只中だったので、結構人が出ていないという時期です。

どういう地域で人がいなくなって、どういう地域で逆に人が集まっているのかという分析については、すごく信頼できます。例えば、東京をフォーカスしていくと、分かり易い集客エリアですから、渋谷や新宿、それから 12 月ですかね、羽田空港、お台場、横浜、それから立川はここら辺になるのかな。今、カーソルは見えていますか。

(事務局)

はい、見えています。

(B 委員)

今、ここが立川。分かり易く減っています。東京の主要集客地域を見ると、かなり激減をしていたということです。それから、元々持っているデータが、どこの人が居たかということまでも分かるので、例えば新宿のあるエリアに居た人が、どこの住所の人だったかというデータも分かります。

例えば、この北陸新幹線でいうと、富山市や金沢市、高岡市、それから長野市とか人口が多いところ。こういうところの住民の方は、新宿 500m メッシュでも捕捉できるんですかね。

今日を用意していないのですが、例えば、鎌倉とかでやってみると、500 メートルメッシュだともうほとんど鎌倉の周りしか捕捉できないので、多分、立川でやっても似たような状況になるのかとは思いますが。どこから来ているかという分析には、多分、立川市全体の集計にしないと難しいというのがこの時の経験で分かりました。

それから、500 メートルメッシュで、スカイツリー周辺に居た人の居住地ですかね、動画になっているのですが、もう 1 回共有します。今、動いて見えていますか。

(事務局)

はい。

(B 委員)

2020 年 1 月でまだこの辺りは緊急事態宣言等が出ていないので、スカイツリーに色々な所から客を集めていますが、進んでいくと、今、これはもうそろそろ緊急事態宣言が出ている時なので、もう

遠くからあまり来ていない感じになっています。すごくラフですけども、どの位のエリアから人を集めているのかは、それなりの確度で見ることができるというデータになっています。これがモバイル空間統計です。

これも今、5月31日で緊急事態宣言があけていますが、まだまだ人手は戻っていない状況だったようです。その後、実はさっきのデータはドコモとの付き合いの中でいただいたのですが、結構使えるデータだと思いまして、お金を使って3年間分購入しました。

2019年1月1日から2020年12月31日までなので、コロナの前後含めて、3年間のデータになっていて、500メートルメッシュだとかななか立川の様な所を含めて、多くの地域で分析できないと思いましたので、500メートルメッシュと、あと所謂、市区町村全体で集計していただいて、購入をしました。ここで今見せているのが、この3年間の1時間毎、約1,000日間の24時間なので、25,000時間位の新宿区と、青いのが大阪の中央区、緑色が名古屋の中区っていう分かり易い都心の状況です。ちょうどコロナの第一波のところで激減しているのですが、その後は実は、そんなに減っていない感じになっています。ちょっとした波でちょっと減りますが、第一波の時の減り方ではないということが分かったりします。

あと、立川を分析するとこうなるのだらうなというデータですけども、これは鎌倉と、それから川越と木更津です。この同じ3年間の状況ですが、こういう分かり易い都心部と比べて、市全体でやると、変動が小さくなっていて、工夫して分析しないと、どの位人が増えたのが減ったのかという分析が結構難しいのかなと思ったりもします。こういうデータがまず一つ目で、それからナビタイムって会社があるのですが、そちらで皆さんもひょっとしたらどこか行く時に、経路検索をかけたりすることがあるかもしれませんが、経路検索する時に日時を指定して、出発地と目的地を入れますよね。そのデータの蓄積をされていて、それを購入しました。

東京都にある目的地か、もしくは東京都からどこか外に検索をかけている、この2つの条件でデータを購入して、例えば2018年2月から2021年11月までなので、コロナ含んでいる期間になっていますが、例えば、やはりこの第一波のときに検索数がゆーに減りますし、それから緊急事態宣言です。2回目、3回目、4回目、ちょうどオリンピック前位の。この位の期間の時も、宣言の初期の頃はかなり減ります。そんな様子が分かったり、あと、八王子市の例ですが、八王子市を目的地とした検索の変化、どの位の変化量かというので、コロナの最初の第一波の時は、もう検索量自体が激減していますが、その後は検索数が増えてはいる、復活し始めているんですが、元通りのレベルにはなっていない。

実は今回、例えば、利用交通手段別に見ると、どの自治体でも自転車の検索数は増えているのですが、特に鉄道系の検索が量としてかなり減っています。全体の検索量としては、鉄道の利用者が圧倒的に多いので、すごく減っていたりもしますし、あと検索されている対象目的地がどんな属性かによっても、かなり検索の度合いが違うということがあります。例えば交通手段、交通施設の目的地の検索量は激減するのですが、観光の検索は、随所随所で上がったたり下がったりすることが分かったりしています。実は、この手の類のデータは高いのですが、色々、コロナ前後でどう変わったかとか、そういったことがかなりよく分かる。コロナを絡めなくても、観光のいわゆる観光巡る様な行動、検索の状況というのが、どうなっているのかが、所謂 RESAS とか、それから観光予報プラットフォームとかそういうものよりも、かなり細かく分かります。RESAS 自体がこういった今日、お見せしたデータを使って、どんな方でも分かり易いように自治体別に表示をしているという機能になっています。

ちなみに、研究室の研究例なのですが、色々なデータを、最近クレジットカードのデータ等も状況によって使える環境になってきているので、色々なデータを合わせてみて、最初の緊急事態宣言ですとか、どの位あけて地域の経済が損失したのかという難しい統計分析ですけども、そんなことをやってみたりしている例というのもうちの研究室ではあったりします。

ご参考までに、こういうこともやっていますという紹介です。それでもう1個、予報プラットフォームについて、こちら画面を共有します。今、予報プラットフォームのグラフが出ていますか。

(事務局)

はい、見えています。

(B 委員)

昨年度 1 年間の立川市の予報プラットフォームのフォーム上での宿泊量を私の方で今、表示をしています。それでこの線ですね、2021 年度になっていてオレンジ色、その 1 年前、2020 年とで、緑色はその 1 年前の 2019 年度ということなので、緑色の時はコロナの影響がない。後半の 3 月はありますけれども、前半ほとんどの期間でコロナの影響が無かった時期になっていまして、2020 年度は最初の頃は凄くコロナの影響を受けて、後半の方、少し盛り返したという感じです。2021 年の時、東京近辺だとオリパラの影響もあったので評価が難しいですが、結構長い期間、緊急事態宣言が出たという感じです。ただ、コロナ 1 年目よりは、みんな気にしていないというような感じで、それなりに需要があったようです。

前回、話題になった人流データがありまして、表示させると青色の今年の宿泊の量と比べて、さっきのモバイル空間統計の様な携帯電話ベースでどの位、人がここで観測されているかというデータを、どうもこの「おでかけ研究所」の方から、予報プラットフォームのデータを入れてもらっているようです。2019 年からなので、一応その青色のこの数字の傾向と、少し見難いので 1 回消します。今、見えていますかね。

(事務局)

はい、見えています。

(B 委員)

立川の昨年度に人流を合わせていくと、先程は赤色だったのですが、今回はオレンジ色になっています。例えば、人流が宿泊かどうかに関わらずに、その地元の人も含めて、対象としている端末がこのエリアに居たかどうかをカウントするわけですので、人流が多いから、宿泊が多いかというところ必ずしもそうではないということになっています。立川の様に人口も多くて、商業系も発達していて、でもそういう方々は泊まらないとなっていて、人流データと宿泊の関係性はそこまで高くないと思うのですが、これが例えば温泉観光地とか、定住人口は少ないけれどもビジターが多いところは、ひょっとするとこの人流のデータと、宿泊のデータはそれなりに相関する可能性はありそうです。

この右側を見ていただきたい。ここに流入数と書いてありまして、カウントされているのが 600 です。そんなに多くないです。立川で 600 だとすると、人口規模等を考えると、そこまで取れていないと考えた方が良いでしょう。たまたまある筋の人がカウントされてしまうと、統計値として上がってしまいます。

例えば、1 月 1 日はこれは多分、人流データで人が多いことは想像通りにはなっていますが、他に多い所でも 200 人とかその位しか立川の人流のカウントがされていないので、現状ではこういう類の分析はまだ難しいとは思います。

あと、ご存知だったら確認したいのですが、立川市内の宿泊可能人数はどなたかご存知の方いらっしゃいますか。

(会長)

MICE のデータであったと思うのですが、資料あるかな。オブザーバー、聞こえますか。

(オブザーバー)

聞こえます。少しお待ちください。

(B 委員)

ちょっと探していただきながら、例えば、2019 年 9 月 5 日に 7,600 となっています。その 2020 年のコロナの影響もあったのかもしれないですが、572 しかなくて、昨年度は 244 しかありません。2019 年 9 月 5 日と調べたら、木曜日です。2019 年 9 月 5 日、何の変哲もない普通の平日のような気もしていますが、例えば立川で大きなイベントがあったのか。

(オブザーバー)

2019 年 9 月 5 日。

(B 委員)

自治体のイベント情報って未来はあるんですけども、過去はないですね。

(オブザーバー)

少し待ってください。

(B 委員)

コロナ前の年なので、普通に動いていた時期です。何でこの日だけすごく多いのかということと、その他の多い時でも 5,000 も無いのに、いきなり 7,000 もある。例えば、これって拡大推計していたりするので、そもそも立川市に泊まれる人数を超えていたらおかしい訳なので、そこだけ知りたいです。

(会長)

何かありましたかね。

(B 委員)

いくつか推測できる毎年似たような傾向は、例えば 2 月 24 日、これは多分入試の関係だと思います。多分、一橋大学とか受ける人が、必ず 2 月 24 日に決まっていますので、多分そうなのだろうと。

(オブザーバー)

9 月ですね。

(事務局)

あるとしたら、市長選。

(B 委員)

昨年度のデータを見ていると、オリパラ、緊急事態宣言が終わって、また観光に人が出るようになった時に、やはり土曜日はいつも混んでいるので、傾向としては正しいものを示しているようにも思えるのですが、局所的に見るとすごく不自然に増えていることがあるので、こういうものも我々の方でその日の記録、イベント情報をちゃんと後で確認できるようになっているとか、何かそういう風にすると、突然多いのは何なのかなというのが検証できる。対応関係が無いと、これが単なる集計上のエラーというのですかね。

(オブザーバー)

記録があれば、それが振り返られる、そういうことですね。

(B 委員)

そうです。データは豊富にはなっているのですが、これが何でなのかという検証するデータが地域側でストックされていないのは結構問題で、可能な範囲で記録が閲覧できるようになっていれば、有難いと思ったりはします。そういうことを申し上げたくて、確認いたしました。いずれにしても、この予報プラットフォーム自体が、私も検証不可能な推計方法をとっているの、我々ユーザー側で何か不都合なものを集めるというか、何か説明できないところを予報プラットフォームの事務局にあげると、向こうの方で推計のアルゴリズムを改善していただける余地がありそうだと思います。日別にせつかくデータが出るので、何があったのかを検証できると良いなとは思ったりします。

あとは、例えば立川はこうなのですが、近隣の八王子とかが似た様な傾向があるのかどうかという視点も結構大事です。例えば今、八王子だけ見ると、八王子もさっき言っていた立川と同じレベルです、人流のデータ数は。何百とかですけれども、先ほどの立川のケースと違って、同じ様な範囲で上下している。宿泊も、例えば 12 月 11 日、それから 11 月 20 日、この辺も多分土曜日じゃないかなと思うのですが、八王子だったらひよっとした紅葉関連とか、ちょうど高尾山が綺麗な時期ですから、そういう可能性はあるかなと思います。

あとは、例えばオリパラの直前、7 月 17 日もピークです。これもその前年と、一昨年、コロナの前と合わせていくと、例えば 10 月 2 日にやたら多い。2019 年 10 月 2 日も先程、八王子を調べたのですが、分らない。ひよっとすると、八王子で何か大きいものがあったとか、10 月 2 日も平日だった感じがします。今、確認します。2019 年 10 月 2 日は水曜です。平日の多そうじゃないところで、先程の立川も含めて、結構ばこっとあるので、少し気持ち悪い感じがします。12 月 14 日は、土曜です。分からなくはないのですが、2019 年の時は逆に言うと紅葉シーズンは大したことはないということがあるので、ひよっとしたら昨年は少し特異だったと考える方が良くもしいないです。肝心な時期が行動抑制されていたので、それが終わってコロナが一旦落ち着いている時で、また年末から激しくなってく、そんな様な影響が一瞬緩んだ時に、人が動いていたという形なのかもしれないです。そう思って、もう 1 回立川に戻って 2021 年度だけを見ると、やはりオリパラとそれ

からまた年末から激しい感染状況の合間で、結構多いという感じです。ひょっとしたら、回りの地域も含めて、みんな似た様な傾向なのかもしれないです。

(オブザーバー)

去年の11月は、百貨店の売上も上がっています。それから、昭和記念公園の来場者数も11月は前年並みになったとか。

(B 委員)

そうですね。そういう他のデータとも合わせていくと、こういったものの見方とか信憑性は良くなっていく気がするので、そういった意味で言うと、正確さはまだ分らないですが、それなりに議論ができるデータベースかなと思います。これ自身が、観光庁がやっている宿泊情報統計で、3ヶ月後位に二次速報が出る。ほとんど本推計に近い位の精度でデータが出て、それを宿泊の所謂、ビッグデータ側、JTB 等が押さえている宿泊の予約状況、あとは実際に宿泊を行った情報とマッチングをして、市町村別に決めてくということをやっているの、たまたま JTB 等で立川絡みの予約が多い日があった時には、その部分で歪めてしまう。本当は立川市にある泊まれる宿泊者以上の値を出たりしかねない、ひょっとすると、そんなこともあるのかもしれないと思います。どうやって推計しているのかという細かい情報は分らないですが、どうやって推計しているのが、一応情報公開をしていて、それを見に行くと、少しそういう恐れがあるかなと感じたりします。

(オブザーバー)

この宿泊者数っていうのは、人数ですよね。

(B 委員)

延べ人数です。多分、2泊したら2っていうカウントになるかと。

(オブザーバー)

今、立川の宿泊のデータで、50以上の施設で1,600室って大体それ位のレベルです。

(B 委員)

1,600室ですか、なるほど。1、何人と考えますと、結構多いですかね。出ている値がひょっとしたら実態よりも多い可能性っていうのはあるかもしれないです。先程の。

(オブザーバー)

50室以上のホテルを集計すると、1,600室です。

(B 委員)

50室以上ですね。もう少し小さいのは、そんなにある訳ではないと思いますので、ここで4,000と出てくると、実態よりも多い可能性があるということですよ、ひょっとすると。

2,000位で収まっている所は空室率が少ない状況の時は、稼働率はどの位なのでしょう、立川。7割位入っているのでしょうか。

(事務局)

観光協会で稼働率って把握されていましてでしょうか。

(オブザーバー)

把握していないです。

(会長)

ホテル業界の人達が集まって、一応は情報交換しているようですが、教えてはもらえないです。うちはいくらだよと教えてもらったことはありますけれど、全体のデータとして出してはいないです。

(B 委員)

いずれにしても、量のデータとしてはある条件ではあるので、あとはその値を解釈する時に、周辺情報等も合わせて、少し割り引いて考えるのか、概ね信用して良いのか、それから量はあまり分らないかもしれませんが、トレンドはあっているのかどうか等、そういうので判断する。立川市位の宿泊の施設数は、他自治体よりは多いと思うので、そういうものを見ると立川市とか八王子市のような所だったら、それなりに信頼できるとは思ってはいますが、今後入ってくるインバウンドについては少し難しいという感じです、まだ。日本人相手だったら、これで市の宿泊事業の何か政策決定の様なものはある程度役立つという感じはします。少しやってみないと分らないのですが、ということです。

あと、こちらの方はもう少しどんな特性の人が泊まったのかというのはあるのですが、どちらかというと、例えば、購入単価層とか客室単価ではないので、恐らく端数を割っていないと思います。でするので、長く泊まっている方は、どうしても多くなってしまう。5万以上は、ほとんど無いですが、たまにあります。長期で滞在することもありますし、あと年齢層です。これも JTB 等もサイトで属性は押さえているので、その属性の比率で、割戻している。未成年とか若年、中年、老年なので、そこまで細かく分けている訳ではないですが、大体傾向として、どの世代の人が多いのかというのは、一応分かってはいます。

インバウンドが入ってくると、ここに海外の情報も入ってくるのですが、ここは昨年度についてはほとんど動いていないので、多分、ゼロということになっています。これが一昨年、インバウンドが元気に動いていた時の 2019 年を出すと、この様な感じです。たまたま JTB や、日本の旅行代理店にインバウンドの方から予約が入ると、少し増えるのですが、ほとんどは OTA で自分で手配されている方達なので、このところに載ってこないです。

立川市位のレベルでも、インバウンドはこの予報プラットフォームでは難しい感じはしますというのが、整理しないで断定的なお話だけですが、一応私の話題提供です。

こういうものを見ながら、今後、少し現場レベルで、出来るレベルで意見交換なり、一緒に分析してみることが出来れば良いなとは思っています。とりあえず以上です。

(会長)

ありがとうございます。せっかくですから、委員の皆様で何かご質問があれば、D 委員、お願いします。

(D 委員)

今の観光情報プラットフォームは、目標値の様なものを設定することはできるのでしょうか。

(B 委員)

例えば、正しい値は難しいと思いますが、何%増えたかとか、比率みたいなものだったら、使える可能性はあると思います。値自体は推計値なので、値そのものが状況によっては信頼できないのですが、20%増えたとか 30%増えたという、その年の比較でそういう意味だったら使えると思ってはいます。そういう意味で言うと、目標値のベース、それが別の形で継続されているのであれば、それに予報プラットフォームの様な分析技術をかけて目標値という取り扱いはできると思います。

(D 委員)

そうすると、第3次の計画の何万人を目指しようっていう数字があるじゃないですか。

(B 委員)

例えば、現状が何万人で5年後に何万人を目指しようというそういう比率がある訳です。

(D 委員)

何%上げれば良いのかを、これで一応、定量的に測ることはできる感じですね。

(B 委員)

はい、倍率の分析だったら、耐えられると思います。現状の、目標値が今はいくつというところが、ちゃんと別で計測されていれば大丈夫です。

(D 委員)

そうですね。

(会長)

ありがとうございます。よろしいですか。時間も迫ってきましたので、続きまして先程、課長からご説明いただきました民間のビッグデータを使用した来訪者数の把握について、詳細の部分のご説明をお願いいたします。

(事務局)

B 委員にもご紹介いただきましたが、ヤフーと KDDI のサービスについて、我々としても使うとエビデンスになりますので、先程の資料裏の効果のところで言うと、住民を除いた来訪者数がそれぞれ、住民と、来訪者で分けた数字をシステムで把握できますので、推計値ですが、ずれはありますけれども把握することができます。

また、市内全域だけでなく、個別に半径どの位か、線を引いてこの場所を指定することもできま

すので、例えば、商店街のイベントで何月何日まで括った時に、どの位人が居るのかも、KDDI のサービスだと取れますので、そういう把握もできる。

また、年1回だけ、年何回とかではなく、パソコンでいじれますので、タイムリーに毎月、日毎という集計もできます。そうすると、年間のぼんやりした数字ではなく、月別に数字の上下が出てきたりということもできますので、立川市にどこからどういう人が来ていて、それが前後して、どういう方が、また、ヤフーだと検索機能があるので、立川に来てどういう検索をしているのかということで、立川に何の為に来ているのかというところが検索で表に出てくると言うことで、こういうものを使うことによって、立川の観光に何を求めてきているのか、それに対して立川市として皆さんで何をしなければいけないのか、こういうものが見えてくると考えております。

時間が無いのですが、事務局から少し実演をさせていただければと思いますので、ご確認いただければと思います。ヤフーと KDD を今、トライアルで権限いただいているので、この場限りでどんな画面なのかを少し共有できればと思います。

まず、ヤフーの D.S.インサイトという滞在人口と検索情報を分析できるデスクリサーチツールですが、まずプレイスからいきます。こちらは地域全体の住民と来訪者の数、あとは属性、性別、年代、どこから来たかという来訪者の居場所が分かるものです。ヤフーの場合には、立川市全体という指定をし、立川市全体を選択して基本画面では、今は6月を指定しています。6月の住民と来訪者の推移、住民の推移、来訪者の推移という見え方で、ヤフーの特徴として、6月の人の興味関心キーワード、ヤフーのサイトでどんな検索があったかという傾向を知ることができます。これに関しては、Google と Yahoo のサイトシェアはスマートフォンだと 75%と 25%位なので、検索ボリュームは圧倒的に Google が多いですが、傾向としては一定数測れるだろうというところ です。

6月に関しては、6月はこういう検索が来訪者に多い傾向にあります。例えば、「蒙古タンメン中本」がありますが、そういうのが見て取れる。あとは、「七中火事」等です。地域の詳細を見るにしますと、こういう時間帯別の滞在の人数が色の濃度で、量を表しています。あとは、人口推移。立川市の場合、土、日で少し総量が落ちる傾向にあります。これはどこの月でもそういう傾向があり、日曜日に向けて落ちていくので、一定数、通勤通学の方がいる都市特性であり、サンサンロードと街中には人がたくさん居そうに見えますが、実は総量としては落ちているという傾向があるというのが、ここで読み取れます。

あとは来訪者と住民、これはエリア全体ですので、人口に近い数字です。他には、来訪者がどこから来ているかという傾向がランキングで示されています。例えば、4日が「東京蚤の市」があった日、この日別にも指定できるので、「東京蚤の市」の時だと、もしかしたらこの辺りの来ている人が変わっている可能性もあるということです。

他には、カスタムエリアというエリアを指定できます。例えば、花みどり文化センターという無料ゾーンを指定して、125 メートルメッシュで場所を指定するか、もしくは円で囲うこともできますのですが、花みどり文化センターのエリアでやると、そのエリアの傾向、ここは「東京蚤の市」のメイン会場で、3日、4日、5日がメイン会場だったので、人口ボリュームが他の時期に比べて圧倒的に多くなっているという傾向が見て取れます。そうすると、「東京蚤の市」の何万人来ているというイベントの影響が図れる、傾向が出ているということは分かる。3日、4日、5日だけ圧倒的に人数が膨らんでいる傾向があり、イベントのインパクトは図れる。これは実数がヤフー系なので、恐らく Z ホールディングス系のアプリの位置情報を拾っているので、数が正しいかどうかはあくまでも、比較分析ができるところが一番強みかなと思っています。この時の来訪元が、休日の場合、これは聞いていたのですが、4日に指定すると来訪者が板橋や、大田区という普段あまり出てこない地域ですので、「東京蚤の市」があった日には、広域から人を引っ張ってそうだということが分かってくる。CSV で吐き出したデータを取ると、恐らくもう少し数が小さい場所も出てくると思います。そこは今、トライアルでダウンロードができないので、使えていません。

他には、一応、地域を比較する機能で、違う場所や、同じ場所でも、例えば、何月という風に時期をずらして、比較検討することもできる機能も付いています。

次にピープルという機能をご紹介します。こちらが、基本画面、検索のボリュームを調べることができます。6月の立川市に関連するキーワードのランキング、選挙があったので、「市議会議員選挙」

で検索している人が多いことや、立川市と付くどのような検索がされているのというキーワードとボリュームが出ています。関係性を示すような機能もあります。

他には、「立川 観光」と検索した人が同じ時期、検索する前、検索した後、という時系列でどういう検索をその前後にしているのかなど、同じ時点でどんな検索をしているのかという傾向を表している機能です。こういったところから、その人がどういう情報を求めているのかを導き出すことができます。細かい分析までは、今はできていませんが、その検索の傾向を図ることができます。長崎のDMOだと、その検索データを分析しながら、1ヶ月前にどういう情報発信をした方が良いのか、旅中でどういう情報が求められるのかという傾向を図って、その情報発信を充実させるというPDCAを回している、そういうものに活用している事例が出てきています。ヤフーの大まかな機能はここまですで、次にKDDI、インターフェースはそうなのですが、KDDIの場合は、より細かい単位で指定をし、そのエリアの来訪者・来街者、住民、勤務という3区分で分析ができます。

あとは、道路を指定し、その道路の範囲で滞在人口や交通量を測ることもできる、GPSの特性を活かした、より細かく分析ができるサービスになっています。あと先程、囲む時に商業施設、グリーンズプリング等をぴったり施設を囲ってエリアを指定することができるという特性もあります。ヤフーだと少しずれが生じたり、その施設をぴったりと囲うことができないので、その差がある。価格面にも表れると思いますが、そういう違いがあります。今、お手元にお配りしているパワーポイントの資料、今、見えていますか。

(B 委員)

今、まだロケーションアナライザーです。

(事務局)

失礼しました。今、ヤフーのデータをもって立川市全域を集計したデータだと、来訪者は2020年度、2021年度は3,000万弱の数字で、2021年ちょっと戻っていない様な数字になっています。

ただ、エリア別に分析していると、駅周辺は戻ってきており、立飛駅周辺は落ちていたり、もしかすると駅周辺は戻ってきたけれども、立飛駅や砂川9番等の違うエリアは少し来訪者が落ちてきている傾向があるのかもしれないという見立てができると思います。これは、こういうGPSデータで、エリアを指定して分析できる強みです。

また、長崎のDMOや地域によっては、前月ベースで数字を出してというよりも、前年比や前月比で、この月の前年よりもどういった変化があったのか、何%増えている、減っているという出し方をレポートとして地域に出しているところはあります。

ただ、数字というよりも実数が正しいかどうかという議論になるので、パーセンテージを出されているのかなど。今、数字を書いています、こういう部分は切って、パーセンテージだけ出しているところがあります。ヤフーのデータを2020年から2022年の3月までを、例えば月別でグラフ化していくと、出こみ引込みみに立川市の全域がなってくる。やはり、緊急事態宣言が出ている時期に素直に減っているのは、見て取れるところです。施策があった時に、どういった変化があったか、GoToトラベルはそこまで影響は無かったのか、ということも傾向が図れるという、推移が分かるという様なことです。こういったGPSデータを使ったデスクリサーチツールを使うことによって、これは立川市の事例ではないですが、地域別の来訪の傾向も一応図ることができます。

長崎ですと、どこの県、どこのエリアから来ているのかを地域別に分析しているのですが、立川市の場合は、近郊から来ている方も多いため、多摩地域、23区、それ以外の地域という括りなのか、北多摩、西多摩、南多摩、23区とそれ以外という括りで、来訪者も地域別の推移を、傾向を図ることも、月毎にまたは日別にすることが、こういったデータを活用することによってできることが分かりました。

また、ヤフーに関して言いますと、先程の検索データを使って、少し見難いのですが、検索のボリュームがどういった変化なのか。例えば、「立川 観光」と検索をした人が、2年前、何年前から、今、どういった変化があるか。2019年から2021年を比べると、立川市と検索した数が、170%なので70%増えていたり、検索しているエリアが全体的に増えている傾向があります。恐らくグリーンズプリングスや、そういった商業施設が広域から人を引っ張る影響があるのではないかと。今後、立飛エリアや、色々なエリアで新しい投資が進んできた後に、どういった変化があるのかということからは、この

様な検索データから図れることが分かりました。ざっとではございますが、一旦、以上となります。

(会長)

根本的なところをお聞きしたかったのですが、今、観光振興計画の中では、JR、モノレール、駐車場、それから来街者、あとは色々なイベントから人数を把握して目標を立てています。これをビッグデータを用いた仕様に変えていくというお話でよろしいでしょうか。

(事務局)

変えていくことができるかどうかという検証をしているところです。ただ、先程、B 委員からご説明があった通り、数が正しいのかどうかという議論をすると、もう正解がない状態。ヤフーが正しいのか、KDDI が正しいのかドコモのモバイル空間統計が正しいのかというと、それぞれの拾っているデータが違うのと、拡大推計のロジックが変わってくるので、そこは課題ではあります。

ただ一方、今取っている数字も、定期外の乗車数を拾って、立川駅北、南。あとは、公共の駐車場の台数かける平均回転率を使って試算している。そうすると、そこは来訪者なのかというところにどうしても行き着く。あとは、立川駅周辺、今、中心市街地しか同じ指標で測れていない。これが、立飛駅の開発が進んでいて、立飛駅の変化というものがモノレールの乗降者数では追えるのですが、それ以外だったら追えていないというところを、また打破するためのツールとして、検証しているところです。

(会長)

個々のイベントの分析にはすごく良いなと今、凄く分かりましたけれど、皆さんからも何かご質問があれば。

(副会長)

簡単な質問ですが、携帯キャリアの数で数字が変わるというパターンだとすると、年度でパーセントを見ても、持っている人の増減で変わらないのかということところが一つ思うのと、今、会長が言われましたけれども、何の為にデータを使うのかということと言うと、何か過去の動きを把握する為なのか、それを基にして次のアクションを導き出すということだとすると、見るものが違ってくるのかなと思います。

例えば、お店だと、どのエリアから来ている人が、何時に来ているというデータは非常に大事で、ポスティングが良いのか、チラシをどのエリアに配布するかという判断、次のアクションに動き易いですが、市として、どういうデータを次に活かすには、どんなデータを取って、次のアクションはこれですというものを導き出さないとしたら、割と精査されたデータの蓄積にしかないと思うので、その辺でデータの活用法や、仮説をどう立てるか。都市型観光だからインバウンドで海外から来る人の政策やっても仕方がないのではないかという仮説を立てるのか、どのエリアの人に刺さる様な政策という方向に行くのか。このデータをどう活かすのかが掴みきれていないですけれども、その辺はどういう考えでしょうか。

例えば、真如苑さんのお参りに来た人も、南口の商店街には今度何人来ますといのがくるのですが、結構な人数です。そういう人をどう扱うか。観光ではないけれど、多分、町でお金を落としてくれるのかなとか、その辺はどういう積算になるのか。

(事務局)

まず、まさに商業施設ではイベントを行った時に、KDDI のデータを使って町別、何町という単位で細かい点も分かるので、データを見て、このイベントをやった時にはこのエリアが強い弱いというのを分析して、次のイベントの時にはポスティングする場所を変更するといった PDCA を回すために使っている所が多いようです。まさにおっしゃる通り、市全体の施策展開で、そこまでのデータを使って変えていく必要があるのかという、今までやってこなかったのが、観光協会の地域のイベントでも、何かイベントやって、それが定量的にどうだったかという分析をして、次にこうしようということはしてこなかったのが、そういうことをやり方変えてみるかという所がないと、意味がないということがあるだろうと。まさに今、行政の方でもどう活かすのかが課題で、こういった中で総量をなんとなく比較するために取るという視点、それが来訪者数に代わる数字として使えるかどうかという論点、それだけじゃない方、違う分析にどう使うのかという、2つの論点があると思っています。総量としての量を測る指標としてどうなのかというところが先程おっしゃった民間のデータを取って

いる数とか、それを買った時に比較は意味がないのではないかとこのところも一定数出てくると思っていますので、その辺りはB委員どうでしょう。

(B委員)

例えば、市の観光振興計画がある程度上手くいったことを示す時に、何か目標値を設定している訳です。その時に、例えば総来訪者数、仮にそういう指標があったとして、増えましたというふうになって、めでたしめでたしですけども、何で増えたのかという要因をどれ程、そこから分解できるかだと思います。

ある商業施設の増減で売り上げがどの位変わったのかという様な分析は少し性格が違う。しかも、立川に訪れる来訪者は、色々な要因で決まる訳ですので、人数がある程度増えたことが、こういったビッグデータから分かったとしても、なんでそうなったのかを、そこからどう導き出すかということの方が重要だと思います。それをどうするかということだと思います。今日、ご説明されたものでかなり細かい分析はできるのですが、細かい分析ですとさっき例えばイベントの効果があったのかどうかとか、そういうところであれば、多分こういう解像度で見てく必要はあるかもしれませんが、総量が一連の政策によってどれほど変わったのかという時に、今日お見せしていただいた様なデータだと逆に細か過ぎるという感じがして、その辺をどうやってバランスを取れば良いのかというのは、今私自身も聞いていて、なかなか答えがないところです。今日のご説明だと、ヤフーを使っていくということですか。

(事務局)

まだどちらという訳ではないですが、それぞれ特性がありますし、ヤフーとKDDIで値段もだいぶ違いますので、一旦その辺りを説明しながら、皆様からご意見いただこうかなと。

(B委員)

これは計画の評価に使うという類の話なのか、それとも、どういう手を打つと、さっき議論にあった様にどう変わるのかというところのどちら側なのかを決めた方が良いと思います。

(事務局)

立川市の場合、例えば地方の都市であれば、行政が丸抱えで観光政策を進めていきますというところがほとんどだと思うのですが、立川だと民間の方が一生懸命やっただいて、商店街にしても、大規模商業施設もそうですし、そういった中で行政が何をするのかという感じになってきますので、行政がここまで分析しても、行政が手を出せるところは、それほど多くない。そうすると、逆に民間にオープンデータとして提供させていただいて、そこを活用していただく様なことになるのか、また、そこによって政策として、民間とこういう中でどう議論していくとかというところ位しか、活用というのが難しいというのが正直なところではあります。

(B委員)

そこら辺ですよね。

(副会長)

こういうデータを例えば観光コンベンション協会なり、商連加盟のところに自由に使えるとなると凄く有難いと思うのと、加盟率も上がるかなという気がするのが1つ。もう1つ、観光って人を呼べば良いという状況のデータしか今、ないですよ。それって税込上がっているか、売上伸びているかという全体での売上がどう動いているかとか、税金がどう伸びているかというのと比較すると、あとはゴミの量。事業用のゴミの量の推移とも比較してみたいなという気もするんですけど。やはり人が来るとゴミが増えていくだろうから、そういうところとリンクさせるとどうなのかなという気がしました。

(会長)

民間利用は課題に必ずなってきますよね。

(B委員)

あと、立川市として、例えば大型の商業施設というのは、自分達の力で色々データも取っていくことはできると思うのですが、例えば、小さい商店とか商店街とか、基本的に民間の活動ですが、そこだけでは体力が無いので、市でそういったデータを蓄積しておく、そういう筋であれば、行政として、こういうところに手を出していく意味はあると思ったりします。

(事務局)

確かに正直、行政もこれだけお金を払うかどうかという、予算がつくかどうかという話になってきますが、それが本当に個人商店の皆さんが使えるか、1人1人がどうぞ入れてくださいと言っても、当然こんなお金を出せるはずありませんので、確かにそれは。

また、コロナの時でもやはり商店街として、皆さんコロナで頑張ってくださいという訳にもいかず、そういう時のために行政が色々と手を出して、皆さんに少しずつ支援していきましょうという経過もありましたので、今後そういうことを考えれば、やはり商店の方が必要なものを、商店が全部用意するのか、または、ある程度そういうところで必要なものにみんなが必要なものを、こういうところで補うのかというのは、議論を十分する余地はあるだろうとは思いますが。

(D 委員)

今のデータもすごく使いようによっては、面白い傾向とか、今まで見えていなかったことが見えてくると思うのですが、やはり何の為に使うのが大事だと思っていて、戦略と施策のマネジメントシート、これベースのこの施策をやるのであればこういうふうに測った方がいいよね、このデータを見るべきだよねというものを個別に設定をした上で、これで取れるものはこれで取れば良いし、そうじゃないものは、別の取り方を考えなければいけない。色々取れたから良かったではないと思うので、何かそういうところも合わせながら、そのデータのマネジメントというのは考えていくべきなのかなとは思いますが。

(事務局)

何分にも、そのデータに基づいて行政を行うというのは、実は僕も色々20年位経験してきましたけれど、大体行政のスタンスって、国の補助金がありますか、都の補助金がありますかというところからスタートが始まって、それに則ってやっていきましょう。ですから、過去にデータがあつてこういうのが必要だからやりますというところの領域ってすごく狭いです。特に福祉の領域になると、生活保護があります、障害福祉があります、みんなそれぞれ全部国の制度があつて、それをやるかやらないかというだけの話。

(D 委員)

これを作った時もその話が出て、必要な情報が無い状態になったので、ちゃんと数字を取っていこうという話になったんです。それをPDCAを回していく土台にしながら、やることを変えていけば良いじゃないかと思つたと思うので、そのデータマネジメントというのがここに入つたことが大きい出来事で、そのデータマネジメントというところを1つ色々なデータが取れるものができたので、それで十分なのか、不十分なのかも含めて、進めるためのものだというところがぶれない様に進めていくべきかなと思います。

(事務局)

ありがとうございます。

(会長)

その辺は次回、少し進捗や考えをまとめていただいて、どれを使うかというのも大きな課題だと思いますが、お話をいただきたいと思います。また、旧来の方式の数値、これまだJRが出ていないですか。

(事務局)

JRの数値の公表が遅れていまして、まだ固まっていないです。JRの数字が8月に出るのではないかという噂がありますので、それをもって確定という形になります。

(会長)

JRから年度で出ているのですよね。

(事務局)

2020年度、21年度の公表が遅れていて、JRが「駅カルテ」というスイカのビックデータサービスを開始したので、5月から。その影響が出ているかもしれないと推測をしています。

(会長)

ありがとうございます。よろしいでしょうか。F委員いかがでしょうか。

(F 委員)

データの使い方は、我々もどういう形でしていけるか課題になっています。今、いただいたお話、それぞれ一長一短ある中で、どういうものを活用していくか、また、それを使ってどう施策を展開していくのかというのはやはり課題かと思います。

(会長)

東京都としての観光に対するスタンスとか、コロナの影響もあったと思いますが、何か変化があったのか、新しいものが出てきたりとかというのは、最近、ございますでしょうか。

(F 委員)

コロナを経て、旅行の形態も変わってきて、新たな観光ということで、環境とか文化とか、そういったもの観光資源として活用していくところを今、少し有識者会議の場でもテーマとして取り上げていて、来週も有識者会議がありまして、そこでは環境と文化をテーマに有識者に色々ご意見をいただくということになっていますので、その辺りも情報提供できればと思います。

(会長)

よろしくお願いいたします。では、時間もだいぶ経過いたしましたので、次回以降のスケジュールも含めて事務局からお願いします。

(事務局)

今回は2月になります。2月にはもう予算要求が終わっているはずですので、その途中で何か皆様にお聞きしたいことがあれば、メール等でご相談させていただくこともあろうかと思いますけれども、よろしくお願いいたします。

(会長)

このビッグデータの活用は、次年度の予算要望をされますか。

(事務局)

あげるかどうかは今、こういったご意見を受けて、次年度からいくのか。長期総合計画の新しいものがスタートするのが令和7年度、6年度からもうその次の第4次の観光振興計画を作る年度に入ってくるのと、来年度からデータのところをもう少し勉強を進めていくのか、令和6年度まで先延ばしにするのか。そこになると、計画を作ることに手いっぱいになってしまって、データはまた次の時に考えればいいよねとなってしまうがちになるところが、ここ2次、3次も続いておりますので、少し余裕を持って丁寧にデータについては研究をしていくべきだろうと考えております。

庁内の中の委員会でも、同じ様に何のために使うのかというのは考えてくださいと言われておりますので、そこはもう事務局としては早急に検証していきたいと思います。

(会長)

よろしくお願いいたします。それでは皆さん、今日はお疲れ様でした。最後に岩下副会長、閉会をお願いいたします。

(副会長)

皆さん、お疲れ様でした。有意義な、活発な意見交換、ありがとうございました。また次回は2月ということですので、お体お気をつけください。今度は元気でリアルにお会いできればと思います。よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

(事務局)

ありがとうございました。